

佐竹徳

瀬戸内市立美術館の開館15周年を記念して、生前の佐竹徳画伯と親交の深かった公益財団法人日動美術財団のコレクションから、岡山では普段は目にすることのできない大作を含めた佐竹画伯の作品を、当館所蔵の秀作とあわせて展示します。また、画伯の生前の様子をうかがわせる写真や、アトリエ「赤屋根」を構えていた牛窓オリーブ園の写真などもあわせてご覧ください。

関連展示 佐竹画伯のアトリエ

特別展の期間中に、3階ギャラリーを無料開放し、アトリエ「赤屋根」を模した空間で佐竹画伯をしのぶ展示をおこないます。

当館所蔵作品と実際に制作した場所の写真をあわせた展示や、生前の画伯の写真パネル等をお楽しみいただけます。佐竹画伯と地域との思い出をたどっていただける特別なスペースです。

※但し6月1日(日)のみイベント準備のため一時閉鎖

SATAKE TOKU 略歴

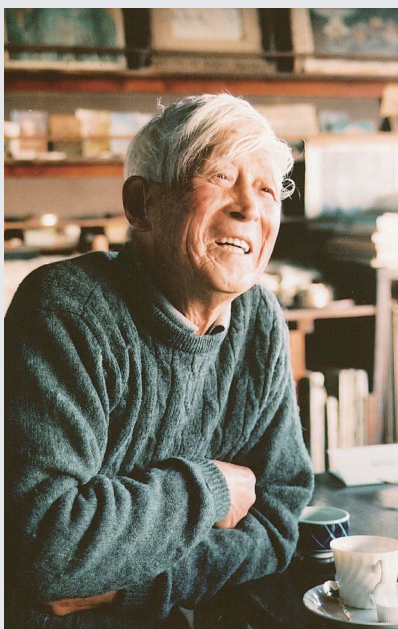
明治30年(1897年)、大阪で生まれる。本名、佐竹徳次郎。大正4年(1915年)18歳で京都の関西美術院に入門、鹿子木孟郎に学ぶ。上京後、藤島武二の指導する川端絵画研究所に入学。

大正9年(1920年)、帝展で2点同時入選の快挙。翌年は特選を受賞し、24歳という若さで画家として順風満帆のスタートを切る。同時期、セザンヌの神秘的な深い画境と精神性に衝撃を受ける。

昭和15年(1940年)から、青森県の十和田湖と奥入瀬渓流に題材を求めて何度も通い、画壇で高い評価を得て「溪流の画家」と呼ばれるようになる。

昭和34年(1959年)、初めて牛窓のオリーブ園を訪れる。赤い土とオリーブの緑が織りなす牛窓の景観が、自身に大きな影響を与えたセザンヌが描いた地中海の風土と重なり、オリーブ園での制作をスタートさせる。昭和42年(1967年)、第10回新日展に「オリーブと海(牛窓)」を出品し、内閣総理大臣賞・日本芸術院賞を受賞する。その後もオリーブ園にある「赤屋根」をアトリエとして40年近く絵を描き続け、数多くの作品を制作し「オリーブの画家」と呼ばれ親しまれる。

平成10年(1998年)2月3日、満100歳で牛窓の地にてその生涯を閉じる。



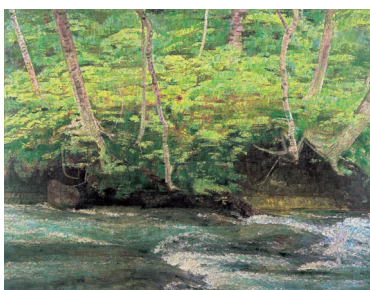
佐竹徳(撮影:森勝正)



《まつやまⅡ》1971年 改組 第3回日展出品作



《境》1959年 第2回新日展出品作



《奥入瀬》1957年 第13回日展出品作

掲載作品すべて日動美術財団所蔵

EVENT

佐竹先生のアトリエ赤屋根散策

牛窓オリーブ園にある佐竹先生のアトリエ「赤屋根」を訪問し、実際に描いた場所など説明を聞きながら散策します。 ※雨天中止

- 講 師:岡本昌康氏、学芸員
- 会 場:牛窓オリーブ園
- 日 時:2025年5月11日(日)14:00~15:30
- 参加費:無料
- 予 約:先着20名
(HP内申込フォームより申込)
※4月11日(金)~受付開始



開館15周年記念ライブ 珈琲と音楽を楽しむ初夏の午後

佐竹先生が大好きだった珈琲を飲みながら、生の歌と演奏を楽しんでいただけます。夏の始まりの午後に、いつもとは違う贅沢な時間を過ごしてみませんか。

- 出 演:コジマサナエ(ジャズシンガー)
宮木賢人(ピانو)
- 会 場:瀬戸内市立美術館3階
「佐竹画伯のアトリエ」内
- 日 時:2025年6月1日(日)14:00~15:00
[開場13:30~]
- 参加費:500円(要観覧料・珈琲付)
- 予 約:先着60名
(HP内申込フォームより申込)
※4月11日(金)~受付開始



拝啓 佐竹徳先生へ

佐竹先生へのメッセージ(ラブレター)を書いてみませんか。「佐竹画伯のアトリエ」内の壁面を、先生へのメッセージで埋めましょう。

- 日 時:会期中随時(フリーワークショップ)
- 会 場:瀬戸内市立美術館3階
「佐竹画伯のアトリエ」内
- 参加費:無料

ACCESS



交通のご案内

公共交通機関でお越しの方

JR赤穂線 邑久駅から市営バス[8牛窓中央線]約20分、
「紺浦(牛窓支所前)」停留所下車徒歩1分(市営バス乗車100円 ※2025.4.1時点)

車でお越しの方(無料駐車場があります/乗用車40台・バス1台)
岡山ブルーライン[邑久IC]から県道39号線を牛窓方面へ約10分

瀬戸内市立美術館
Setouchi City Museum of Art

〒701-4302 岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓 4911
TEL.0869-34-3130 FAX.0869-34-3438
URL <https://www.city.setouchi.lg.jp/site/museum/>

